

THE STEP OF THE MARUMO FUND

丸茂基金の

歩^み

公益信託丸茂救急医学研究振興基金の概要

委託者・信託管理人・運営委員

基金設立記念式

助成研究成果報告書の刊行

助成金給付対象者

息子・丸茂 裕之を偲ぶ

公益信託丸茂救急医学研究振興基金

ご挨拶

— 20周年記念を迎えて —

私が丸茂基金（公益信託丸茂救急医学研究振興基金の略）を設立してから今年で20周年を迎えることになり、6月29日は上野寛永寺に眠る息子の二十三回忌にあたります。思えばあの気の狂うような悔しさと悲しみの中から立ち上がり今日までに至ることができたのも、ひとえに皆様方のあたたかいご支援の賜物であり、このご恩は生涯忘れることはありません。

振り返りますと、論文審査委員会で「優秀論文」として取り上げられた全国各地の大学救急部や病院救急部に対する助成の交付件数は、この20年間で80件にも達する成果をみることができました。このことは、私にとりましてこの上ない喜びであると同時に亡き息子に対する供養となり、新たな思いを感じます。また、このように本基金が順調に運営されたことは、基金運営委員の諸先生方のご尽力はもとより、日本救急医学会ならびに日本臨床救急医学会の両代表理事先生をはじめ会員皆様方のご理解とご協力によるものと、改めて敬意を表し心より深く感謝申し上げます。

本基金は、我が国の救急医学の分野で研究されている皆様方への一助となることを願って設立いたしました。基金を利用された皆様方はいずれも救急現場の第一線で活躍されている優秀な先生方として、基金にとりまして大変名誉なことでもあります。

今後も本基金が当初の目的を永続的に達成できますよう、運営委員会の先生方のご意見に基づきながら円滑に進めてまいり所存です。どうぞ本基金に対しまして、今後とも諸先生方の変わらぬご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びになりますが、日本救急医学会ならびに日本臨床救急医学会の限りない発展と皆様方のご健勝を心よりご祈念申し上げ、丸茂基金20周年記念のご挨拶といたします。

丸茂 裕和



【第1回運営委員会】平成2年1月17日

前列左より：松田博青（運営委員）、杉本 侃（運営委員長）、丸茂裕和（委託者）、須藤政彦（運営委員）、小濱啓次（運営委員）。

後列左より：3番目・西村靖雄（受託者：株式会社大和銀行）、4番目・福崎幹郎（信託管理人）。

公益信託丸茂救急医学研究振興基金の概要

本公益信託は、医療法人社団恵仁堂丸茂病院（東京都練馬区貫井）理事長の丸茂裕和氏が、ご子息のご冥福を祈念し、平成2年1月に設立されました。救急医学に関する研究者や、学術団体を対象にその研究を助成し、もってわが国の救急医学の進歩・発展と救急医療の普及に貢献することを目的として、救急医学に関する研究を行う個人もしくはグループに対して助成を行うものです。

名称	公益信託丸茂救急医学研究振興基金
信託目的	救急医学に関する研究者や学術団体を対象に、その研究を助成し、もって我が国の救急医学の進歩・発展と救急医療の普及に貢献することを目的とする。
事業（信託事務）	信託目的を達成する為に次の事業を行う。 (1) 救急医学研究に関する研究費の助成 (2) その他 (1) の事業を達成する為に必要な事業
委託者	丸茂裕和（丸茂病院長）
受託者	株式会社大和銀行（現 株式会社りそな銀行）
信託財産	金銭 100 百万円
受託日	平成2年1月8日
信託期間	特に定めない。ただし、信託目的の達成または達成不能あるいは信託財産の消滅により終了する。
信託管理人	淵上貫之（弁護士）
運営委員会委員	大塚敏文（日本医科大学教授、同附属病院長） 小濱啓次（川崎医科大学教授、同救命救急センター部長） 杉本 侃（大阪大学医学部教授、同附属病院特殊救急部長） 須藤政彦（慶應義塾大学医学部客員教授、済生会神奈川県病院長） 松田博青（杏林大学医学部教授、学校法人杏林学園理事長） ※平成2年1月17日発足時
信託管理人の機能	不特定多数の受益者の保護の観点から、信託財産の決算等重要な事項につき、承認、同意を行う。
運営委員会の機能	助成金給付対象の選考並びに給付額及び給付方法の決定を行うに際し、意見を述べ、勧告を行う。
主務官庁	文部省（現 文部科学省）
その他	本公益信託は、特定公益信託として主務官庁の証明及び認定を得たものです。

●助成金給付対象者募集に関しては、下記事務局へお問い合わせ下さい。

〒135-8581 東京都江東区木場 1-5-65 深川ギャザリア W2 棟

株式会社りそな銀行 信託サポートオフィス 公益信託担当 TEL 03-6704-3325 FAX 03-5632-6359

委託者・信託管理人・運営委員

(平成 22 年 4 月 1 日現在)

委託者
丸茂 裕和 (医療法人社団恵仁堂丸茂病院 理事長)

信託管理人
洲上 貫之 (弁護士)

運営委員長
島崎 修次 (国士舘大学大学院研究科委員長)

運営副委員長
有賀 徹 (日本臨床救急医学会 代表理事、
昭和大学医学部救急医学 教授)

運営委員
杉本 壽 (日本救急医学会 代表理事、
星ヶ丘厚生年金病院 院長)
山本 保博 (日本私立学校振興・
共済事業団東京臨海病院 院長)

浅井 康文 (札幌医科大学救急集中治療部
高度救命救急センター 教授)

坂本 照夫 (久留米大学医学部
高度救命救急センター 教授)

堤 晴彦 (埼玉医科大学総合医療センター
高度救命救急センター 教授)

論文審査一次選考委員

選考委員長 有賀 徹
(昭和大学医学部救急医学 教授)

選考委員

石井 昇 (神戸大学医学部附属病院救急部 教授)

遠藤 重厚 (岩手医科大学高度救命救急センター 教授)

荒井 伸幸 (東京消防庁救急部 消防司監)

中村 恵子 (札幌市立大学 副学長)

横田順一郎 (市立堺病院 副院長)

基金名誉運営委員

大塚 敏文 小濱 啓次 杉本 侃

須藤 政彦 野口 英一 松田 博青

山本 修三

主務官庁

文部科学省 研究振興局学術研究助成課



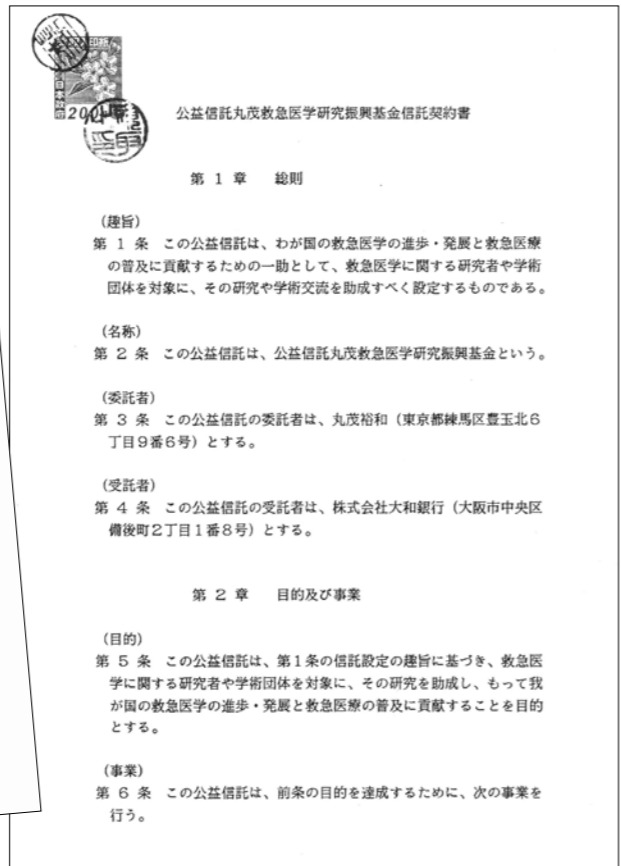
信託管理人
洲上 貫之



運営委員長
島崎 修次



運営副委員長
有賀 徹



基金設立記念式

基金設立記念式での挨拶

本日は、ご多忙中にもかかわらず基金設立記念式にご出席を賜りまして、ありがとうございます。厚くお礼申し上げます。

今日の目覚ましい医学の進歩にもかかわらず、ますます多様化の社会の中でまだまだ病態不明の疾病のために貴重な生命が失われております。私は、息子の死を経験して生きていることの尊さをしみじみと感じさせられました。

このような現実を志したこれからの若い医師の研究努力によって解決されることを、多くの国民は期待しております。

息子の死がきっかけとなり、研究者に対する助成制度の設立について関係各位と検討を重ね

てきましたが、文部省研究助成課のご理解と日本救急医学会の理事長をはじめ諸先生、大和銀行信託部のご協力によりまして、本日ここに基金設立の運びとなりましたことは、私にとって誠に感無量であります。皆様方に深く感謝を申し上げる次第であります。

この基金が将来にわたり多くの研究者のために有効かつ円滑に運用されますことを願いますとともに、私にとって息子に対するこの上ない供養になるものと信じております。

どうか諸先生におかれましては、本基金に対しまして一層のご指導とご協力を賜りますことをお願い申し上げます。基金設立記念のご挨拶といたします。ありがとうございました。

平成 2 年 1 月 17 日

丸茂裕和

助成研究成果報告書の刊行

論文集刊行記念祝賀会での挨拶

本日はご多忙中にもかかわらず多数の皆様のご臨席を賜り厚くお礼申し上げます。

私は息子に託した夢を絶たれましたが、この夢を少しでも果たすべく、これからの若い先生方の研究に少しでもお役に立てればとの願いをこめてこの基金を設立しました。

本基金の設立と運営に当たっては、日本救急医学会の役員の皆様、基金運営委員長である杉本侃大阪大学名誉教授をはじめ運営委員会の先生、その他の関係者の皆様にご協力を賜り大変お世話になっております。改めて感謝と敬意を表したいと思います。

私は息子の死を経験して生きていることの尊さをしみじみと感じています。今日我が国の医学の日進月歩の発達にもかかわらず、まだまだ病態不明の病気のために多くの人々が命をうばわれています。若い医学研究者の努力による成果によって、一人でも多くの人の命が救えるよう願っております。

本席には生前息子が大変お世話になりました学



救急医学研究 第 I 集
(平成 8 年 11 月 14 日発行)



救急医学研究 第 II 集
(平成 13 年 6 月 29 日発行)

校の先生方、当時の PTA の役員の方々をお招きしております。息子に代わってお礼申し上げます。私にとってはまた新たな思いを感じます。

また企業の方々も多数の皆様をお招きしております。ご承知のように、近年における預金金利の低下は基金の運営にも影響を及ぼしています。不本意ではありますが、優秀な論文も助成からもらえるという結果もみられます。

どうか企業の皆様には本基金にご理解を賜り、是非ともご協力をお願い申し上げます。

本基金が皆様方のご支援で益々の発展とご来席の皆様のご健勝を祈念して私のご挨拶といたします。

平成 8 年 11 月 14 日

丸茂裕和

助成金給付対象者

平成2年度	遠藤 重厚 (岩手医科大学高次救急センター講師) 「敗血症性ショックにおけるサイトカイン異常産生機構の解明」
	鈴木幸一郎 (川崎医科大学救急医学助教授) 「重症熱傷に対する8% NaCl 溶液投与の効果：特に心臓機能に及ぼす影響について」
	中谷 寿男 (帝京大学医学部救命救急センター講師) 「脳死患者における肝ミトコンドリアの酸化還元状態とカテコラミン投与」
	金 弘 (船橋市立医療センター脳神経外科部長) 「中都市型救急医療体制の再整備」
	杉本 侃 (日本救急医学会代表)
平成3年度	久保山一敏 (兵庫医科大学救急部研究生) 「軽度低体温(34℃)導入時期がイヌ心肺蘇生後の神経学的予後に及ぼす影響：蘇生時即時導入と遅延導入の比較」
	平出 敦 (大阪大学医学部救急医学助手) 「外科的侵襲時におけるエネルギー基質としてのケトン体の研究」
	大竹 喜雄 (千葉大学医学部救急集中治療部助手) 「救急領域における持続的血液濾過 (continuous hemofiltration, CHF) および持続的血液濾過分析 (continuous hemodiafiltration, CHDF) の有用性および安全性の確立」
	北野 光秀 (済生会神奈川県病院外科部長) 「術後の水分バランスと心房性 Na 利尿ペプチド」
	堀 進悟 (慶應義塾大学病院救急部副部長) 「救急医療における失神発作の病態研究」
	伊藤 靖 (札幌医科大学救急集中治療部助手) 「心肺脳蘇生における cardiopulmonary bypass の有用性に関する研究」
	広川 満良 (川崎医科大学人体病理学講師) 他6名 「パラコート中毒37剖検例の上部消化管病変—その病理組織学的検討—」
平成4年度	行岡 哲男 (杏林大学医学部救急医学助教授) 「出血性ショックにおける血管容積弾性率 (Ev) の検討」
	岸川 政信 (大阪府立病院救急診療科診療主任) 「鈍的胸部外傷患者における胸部 CT を用いた左右別肺含気の定量測定」
	上山 昌史 (社会保険中京病院救急科主任部長心得) 「広範囲熱傷受傷による DIC の発症機序」
	高桑 徹也 (岩手医科大学高次救急センター助手) 「多臓器不全発症におけるサイトカインと接着因子の作用の解明」
	竹倉 直樹 (広島大学医学部附属病院救急集中治療部助手) 「多臓器不全における血管内皮細胞障害の病態の解析」

平成4年度	森本 一良 (大阪府立母子保健総合医療センター小児外科部長) 「新生児中枢神経系疾患に対する救急医療—水頭症病態とその外科的対応に関する研究—」
	溝端 康光 (大阪大学医学部附属病院特殊救急部医員) 「頭部外傷患者に対するケトン体輸液の有用性に関する研究」
平成5年度	織田 成人 (千葉大学医学部救急集中治療部助手) 「重症救急患者管理における組織酸素代謝測定の意義と組織酸素代謝改善のための治療法の確立」
	佐藤 重仁 (筑波大学臨床医学系麻酔科助教授) 「イヌの CPR 中の Pco ₂ と心拍出量の動静脈差」
	常盤 嘉一 (北里大学救命救急医学講師) 「破裂動脈術中局所脳血流量測定の有用性」
	原田 優人 (京都府立医科大学医学部麻酔学教室助手) 「各種低酸素病態下における生体内臓器による乳酸の産生代謝に関する研究」
	福田 充宏 (川崎医科大学救急医学講師) 「低酸素負荷に対する耐性現象に関する実験的研究」
	丸山 一男 (三重大学医学部附属病院救急集中治療部講師) 「ARDS における一酸化炭素 (NO) 吸入の選択的肺動脈圧降下作用」
	中永士師明 (岩手医科大学高次救急センター助手) 「敗血症における病態 (特に汎発性血管内凝固症候群発症における血管内皮傷害因子としての接着分子の関与の検討)」
	田中 秀治 (杏林大学医学部救急医学講師) 「広範囲熱傷患者における人工皮膚 (COMPOSITE SKIN) 開発の試み」
平成6年度	川上 正人 (防衛医科大学校病院救急部講師) 「熱傷早期における臓器別サイトカイン産生能の経時的測定」
	大友 康裕 (日本医科大学千葉北総病院救急医学科救命救急部助手) 「敗血症性肝障害発生機序に関する研究 (ロイコトリエンの関与)」
	原田 優人 (京都府立医科大学医学部助手) 「低酸素血症時の脳における NO 産生の変化とその変化が脳血流に及ぼす影響について」
	入倉 克己 (北里大学医学部脳神経外科講師) 「低脳温療法における酸塩基平行管理の意義及び脳血管反応性の検討」
	呉 教東 (兵庫県立西宮病院救急医療センター医長) ①「脳損傷後の水分含有量に対する低体温療法の効果のその機序」 ②「頭部外傷における凝血学的治療の適応と有用性についての実験的検討」
	小池 薫 (日本医科大学千葉北総病院救命救急部助手) 「小腸虚血・再灌流による遠隔臓器障害発生におけるホスホリパーゼ A2 の役割」

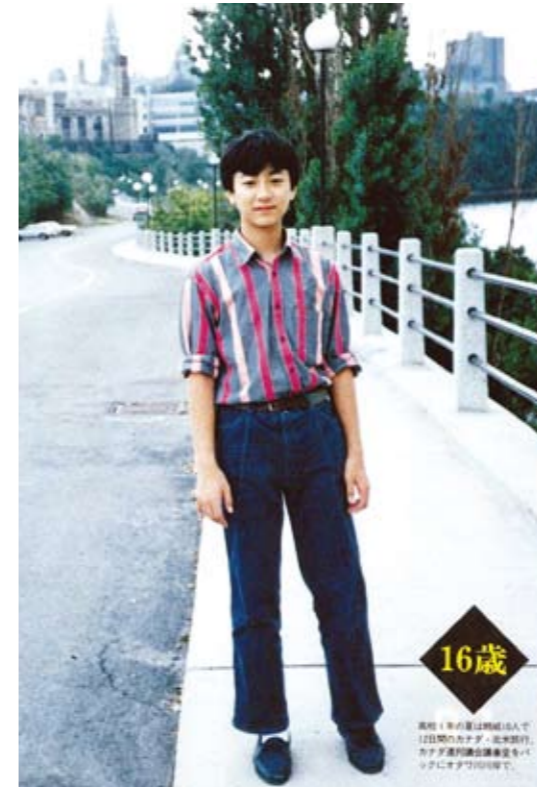
平成7年度	塩崎 忠彦 (大阪大学医学部附属病院特殊救急部医員) 「広範囲熱傷患者の熱産生に関する研究」
平成8年度	山田 裕彦 (岩手医科大学高次救急センター助手) 「多臓器不全症におけるアポトーシスとサイトカイン」
	吉野 篤人 (浜松医科大学附属病院救急部医員) 「培養血管内皮細胞における蛋白分解酵素阻害剤を用いた PAI-1 産生の抑制」
平成9年度	榊原 毅彦 (京都府立医科大学脳神経外科助手) 「ドーパミン系ニューロンの活性化による LTP の増強効果を用いた新たな外傷性痴呆の治療法の確立」
	池上 敬一 (杏林大学医学部救急医学教室講師) 「PCR 法を用いた外傷モデルにおけるサイトカイン産生発祥部位の特定に関する研究」
	廣橋 伸之 (久留米大学医学部救急医学講座助手) 「敗血症患者におけるエンドトキシントラランスとプライミング」
平成10年度	木村 昭夫 (国立国際医療センター救急部医長) 他4名 「中等度低体温下におけるヒト末梢血単核球の炎症性サイトカイン産生能の研究」
	山田浩二郎 (名古屋大学医学部附属病院救急部医員) 「分子生物学的手法を用いた人血液からの定量的細菌遺伝子検出システムの開発」
平成11年度	石倉 宏恭 (関西医科大学救急医学科助手) 「Cimetidine 投与後の免疫能賦活ならびに予後改善効果に関する基礎的研究」
	高桑 徹也 (大阪大学医学部病理病態学助手) 「IL-10 遺伝子導入法による、敗血症・多臓器不全治療法の研究」
	西田 昌道 (東京大学医学部附属病院救急部助手) 「SIRS の臓器障害進展過程における臨床所見と好中球接着分子の動態との対比」
平成12年度	真弓 俊彦 (名古屋大学医学部救急部集中治療部講師) 「敗血症ショックに対するエンドトキシン吸着カラムの有効性の多施設共同研究」
	志馬 伸朗 (京都府立医科大学集中治療部助手) 「緑膿菌性肺炎および続発性敗血症の病態解明と新しい予防法および治療法の開発—特に緑膿菌 III 型外毒素分泌システムに対するターゲット療法の開発—」
平成13年度	海野 直樹 (浜松医科大学医学部附属病院第二外科講師) 「出血性ショックに対する酸素化 perfluorocarbon 腹腔内環流の効果についての実験的研究」
	高須 朗 (防衛医科大学校病院救急部講師) 「重度肝損傷に対するマイクロ波凝固療法の実験的研究」
	松田 兼一 (千葉大学医学部附属病院救急部助手) 「液体呼吸の ventilator induced lung injury (VILI) 予防効果の検討」
	中永士師明 (秋田大学医学部救急医学講師) 「多臓器不全発症における α 2-macroglobulin に結合したサイトカインの定量」

平成14年度	澤口 聡子 (東京女子医科大学医学部助教授) 「アセトアミノフェンの肝毒性に関する分子病理学的研究」
平成15年度	長屋 昌樹 (聖マリアンナ医科大学救急医学科助手) 「熱可逆性ハイドロゲルを用いた肝充填療法と肝再生過程解明、組織幹細胞同定に関する研究」
	松田 直之 (北海道大学医学部附属病院救急科助手) 「肺血症性ショックにおける NF- κ B 選択的遮断オリゴヌクレオチドの吸入療法」
	守谷 俊 (日本大学医学部救急医学教室助手) 「重症頭部外傷急性期における microdialysis を用いた細胞レベルにおける虚血病態の早期把握に関する研究」
平成16年度	清水 直樹 (国立成育医療センター救急診療科医員) 「小児トリアージ緊急度判定ガイドライン作成のための基礎研究 (Pediatric Triage and Acuity Scale ; PTAS)」
	八重樫泰法 (岩手県高度救命救急センター助手) 「新規に発見した可溶性 CD14 サブタイプ (sCD14-ST) の測定による、救急における敗血症の迅速診断の有用性について」
	河原 祐一 (帝京大学救命救急センター助手) 「白血球機能からみた腹部コンパートメント症候群に続発する多臓器障害の病因に関する研究」
	鹿野 恒 (札幌医科大学救急集中治療部 助手) 「心肺停止後の神経細胞障害の解明」
	毛利 智好 (大阪大学大学院医学系研究科救急医学大学院生) 「侵襲時単球機能不全における細胞内 heme oxygenase-1 の役割」
平成17年度	藤田 尚 (帝京大学医学部附属病院救命救急センター助手) 「外傷手術の標準化に関する研究」
	織田 順 (社会保険中京病院救急科医長) 「広範囲熱傷患者のショック期における高張ナトリウム輸液の腹腔内圧への影響と効果的な経時的モニタリングに関する研究」
	石川 和男 (大阪府立泉州救命救急センター医長) 「Interfascial planes の概念からみた急性膵炎の CT 重症度分類の作成と検証」
	渡邊 栄三 (千葉大学医学部附属病院救急部・集中治療部助手) 「Cytokine 関連遺伝子多型解析を用いた全身性炎症反応症候群 (SIRS) 重症化予知と Tailor-Made 医療としての Cytokine Modulation を用いた Prospective Study」
平成18年度	津村 裕昭 (広島市立舟入病院外科部長) 「穿孔性胃十二指腸潰瘍 (PPU) に対する治療法選択基準の明確化」
	伊藤 伸子 (東京大学医学部附属病院麻酔科助手) 「虚血再灌流傷害病態形成におけるロイコトリエン B4 受容体の役割の解明」
	宮内 雅人 (日本医科大学高度救命救急センター助手) 「ラット出血性ショックモデルにおける肝臓のマイクロ RNA 発現解析」

息子・丸茂 裕之を偲ぶ

平成18年度	志馬 伸朗 (京都市立医科大学集中治療部講師) 「重症敗血症における感染症の迅速診断の試み」
平成19年度	安里 満信 (自治医科大学救急医学講座助教) 「多発外傷患者における VTE (静脈血栓塞栓症) の早期診断基準の開発」
	高須 修 (久留米大学医学部救急医学助教) 「抹梢血分析によるヒト脾機能評価～血漿タフトシン濃度と好中球貪食能、および IgM memory B cell 値からみたヒト脾機能～」
	田中真一郎 (国士舘大学大学院救急救命システムコース研究生) 「児童虐待に対する病院前救護体制のあり方についての研究」
平成20年度	塩谷 清司 (筑波メディカルセンター病院放射線科科長) 「死亡時画像病理診断 (オートプシーイメージング) による非外傷性死の死因分析と外傷性死の損傷診断」
	井上 貴昭 (順天堂大学附属浦安病院救急診療科准教授) 「好中球表面アデノシンレセプターの発現を指標とした急性肺障害症例の重症度評価と高張塩化ナトリウム溶液の治療応用」
	梶野健太郎 (大阪大学大学院救急医学教室医員) 「日米両地域の病院外心停止症例の生存転帰に基づく救急救命士による気管挿管を含む高度な気道確保の効果に関する研究」
	張 京浩 (東京大学医学部附属病院麻酔科講師) 「カテコールアミン誘発性心筋傷害の機構の解明とそれを予防する心筋保護シグナルの検討」
	○峯村純子 (昭和大学病院薬剤部課長補佐) 「救命救急病棟等における薬剤師業務に関する研究」
	○平田清貴 (日本医科大学付属病院薬剤部主幹) 「三次救急医療施設に搬送された医薬品関連救急疾患に関する研究」
平成21年度	仲村 将高 (千葉大学大学院医学研究院救急集中治療医学助教) 「“Cytokine Theory of Disease” からみた Surviving Sepsis Campaign guidelines の妥当性に関する研究」
	田上 隆 (財団法人温知会会津中央病院救命救急センター医師) 「急性肺水腫の定量的評価による診断に関する研究」
	山本 啓雅 (大阪市立大学大学院医学研究科救急生体管理医学講師) 「内因性救急疾患に対する『救命救急診療シミュレーションコース』の Construct Validity (構成概念妥当性) に関する研究」
一三三 亨 (独立行政法人国立病院機構災害医療センター救命救急科) 「大量輸血を必要とした外傷患者の甲状腺ホルモン、並びにマグネシウム、リン、カルシウムの変化」	

日本救急医学会 78 件 ○：日本臨床救急医学会 2 件 合計 80 件 助成総額 4,460 万円



高校1年の夏は親戚10人で12日間のカナダ・北米旅行。カナダ連邦議会議事堂をバックにオタワ川川岸で(1987年8月)。当時、姉ゆきこは夫が日本国カナダ大使館勤務のためオタワに居住していた。



ぢいちゃんのヒロ (1989年6月29日発行) 自画

丸茂裕之

昭和46年8月9日、練馬の丸茂病院で生まれる。

赤い鳥幼稚園、区立豊玉小学校、豊玉中学校を経て昭和62年、私立聖学院高校入学。

高校1年の3学期、体の不調を訴え入院。4ヶ月後の昭和63年6月29日、早世。行年満16歳。

委託者
まるも ひろかず
丸茂 裕和 ●略歴 東京医科大学卒業



▼役職歴
日本救急医学会理事
日本臨床救急医学会理事長代行
沖縄サミット厚生省救急医療班指揮者
練馬区医師会会長

▼現職
医療法人恵仁堂丸茂病院理事長
警視庁練馬警察署警察医
東京都消防懇話会常任理事
日本救急医療財団評議員
日本中毒情報センター評議員
日本救急医学会名誉会員
日本臨床救急医学会名誉会員

